

## 福岡市内の大学・専門学校の就職活動支援ヒアリング調査結果

佐賀大学経済学部教授 平部 康子、同 山本 長次

### 福岡市内の大学・専門学校の 就職活動支援 ヒアリング調査結果

佐賀大学経済学部 平部、山本

ヒアリング調査対象

【専門学校】2021.12.10

- ①学校法人慈恵学園 福岡医健・スポーツ専門学校
- ②学校法人慈恵学園 福岡デザイン&テクノロジー専門学校
- ③学校法人慈恵学園 福岡ウエディング&ホテル・IR専門学校

【大学】2021.12.17

- ④福岡工業大学

#### ①-③ 学校の特徴について

学校法人慈恵学園は北海道地区・東北地区・関東地区・九州地区に34の専門学校を有する学校法人である。九州地区には8つの専門学校があり、すべて福岡市博多区に置かれている。

①福岡医健専門学校は、作業療法科・理学療法科（4年）、看護学科・歯科衛生士科・救急救命公務員科・鍼灸科・柔道整復科（3年）、薬業科・スポーツ科学科（2年）で構成されている。学生数は約1300人である。



(続き) ①福岡医健専門学校

就職支援組織ーキャリアセンター（本部棟）

キャリアセンターでは、4名の職員がおり、「学科」を分担して担当している。

入学してすぐに、職員は担当学科の学生全員と面談する。言い換えれば、（学習面でも担任制をとっているが）就職に関して担任のような状態になっている。

一人一人の学生の就職先が見つかるまで担当は変わらない。

#### 医療系専門学校の就職支援の特徴

一実習が選路選択に大きな影響  
一第1の就職先自体が、専門性を高めるプロセスの一環（例・急性期か否か、矯正歯科か否か等）  
⇒キャリアサポート職員との面談を重視するマンツーマン支援

鍼灸科・スポーツ科学科などは、小さな診療所・スポーツジムで働くケースも少なくない。  
⇒多岐様な職場の雰囲気の情報を求めている



地元就職および佐賀県への就職について

・就職先として、地元（福岡市）にはこだわらない。もともと、学生の6割は県外の出身であり、地元に戻ることを希望する者も少なくない（ただし、病院勤務を除く）。その場合は、それを支援する。

・歯科衛生士だけは、福岡市および福岡県内の就職が多い。  
・キャリアサポートの職員は、自治体の就活サイトについてもよく理解しているようである。

・佐賀県からの求人の情報提供にも目を通しているとのことであるが、一般職や介護なので、マッチングしないとのことである。  
・福岡は、専修学校協会から求人情報が来るので、学生の専門性に適合したものを紹介しやすいとのことである。

②福岡デザイン&テクノロジー専門学校は、スーパークリエイター科とクリエイティブ・デザイン科から構成され、その中に14の専攻（3年/4年）を設けている。

学生数は約700人である。



キャリアサポート担当職員は、1名である。①と異なり、広いフアアの「キャリアサポート室」があるわけではない。  
就職は専攻の担任の先生の役割が大きいうである。

地元就職および佐賀県への就職について

・就職支援のポリシーは、専門性の重視である。例えば、ゲームクリエイターになりたいという希望を持っている学生に対して、（いきなりなれないにしても）その足掛かりになるポジションでの就職を助言するようにしている。

・求人は、関東からが圧倒的に多く、売り手市場である。年間200社が直接来校する。  
・実際の就職先は6割ぐらいが東京、2割ぐらいが大阪である。残りが福岡である。佐賀は、1・2社であった。

・上記のような背景から、学生の地元志向はない。

- ・就職指導は、何よりも作品見本の「ポートフォリオ」指導が重視される。
- ・企業側もオンラインでの採用活動が広がり、専門性を伸ばしたい学生にとって、旅費を気にせずに就職活動がしやすくなった。
- ・キャリアサポの個別就職支援も、オンラインによるものが多い。



- ・「地元就職」という意味では、佐賀に就職する学生はほとんどいない。
- ・ただし、学校に「佐賀から通ってきている」学生は多くおり、その学生が佐賀に住まい続けながら福岡市に就職するという例はあるだろう。（ただし、統計は採っていない）

・就職が難しい学生については、「キャリアを積んで転職」する道も指導している。したがって、会社名や労働時間・賃金だけでなく、より具体的・細かな仕事の内容を示してもらえれば、指導がしやすい。

③福岡ウェディング&ホテル・IR専門学校は、プライダルの3つのコース、ホテルマネジメントの2つのコース、エアラインの2つのコース、リゾート観光、販売、から構成されている。

約200名の学生が在籍している。  
キャリアサポート担当の職員は1名である。



- ・インターンシップが実習として組み込まれているが、医療系のように指定されているわけではなく、自分の希望するところに行くことができる。インターンシップ先が就職先になることも多い。

- ・キャリアサポの職員は、1年次冬のインターンシップ先「候補」を探してもらう。このため、1年次からマンツーマンの面談をして学生の進路の方向性を把握している。
- ・企業の理念（求める人材）と学生が合うことが重要である。
- ・合同説明会は30社ほどで行っているが、事前に各企業と打ち合わせしている。

- ・就職支援で重視するのは、「学生の希望」である。ただし、コロナ禍で、観光・エアラインコースなどは希望する就職先がなくなってしまう。このため、「次につながるような」業種を学生に紹介するようにしている。例えば、接遇のキャリアを活かせる、ジュエリー販売、医療事務・エステ受付などである。

地元就職および佐賀県への就職について

- ・地元就職を希望する学生は1割程度。
- ・保護者向けの就職ガイダンスは行っていないが、（前のスライドで述べた）労働市場の変化については手紙でお知らせし、専門以外の一般就職も視野に据えるように伝えた。

・学生が就職するまで一人一人支援する体制をとっており、学生に向けて求人情報や個別相談をするほか、キャリアサポ職員が（決まっていなかった学生のために）企業に連絡をすることもあった。

・合同説明会に佐賀県からの企業はなかった。熊本県からはあった。

#### ④福岡工業大学

大学の特徴について

福岡市東区にあり、（快速が停車する）駅から徒歩1分という利便性に長じた場所にある。

大学には、工学部・情報工学部・社会環境学部があり、その上に大学院がある。また、短期大学部（情報メディア学科）がある。学生数は、学部4200人、大学院150人、短大300人である。

「就職の福工大」（就職満足度九州1位）と呼ばれるよう、徹底した就職活動支援を行っているのが特徴の一つである。

- ・就職支援組織について

就職課には、13名の職員がおり、学科別に担当が決まっている（HPに担当職員の氏名も掲載している）。また、東京/大阪に選任要員（企業の人事担当経験者）も配置している。担当者は10月から年末までに個別面接をする。

教務課・学生課と同じオープンフロアに配置され、学生の動向を共有しているとのこと。  
「企業様受付」「今週の学科別就職率の電光掲示板」があるのが印象的



- ・就職支援について、学生が満足できる＝学んだ専門性を活かす、を重視している。また、「実就職率95%以上」を目標としている。（昨年は99.8%）

- ・上記を達成するため、アンケートの質問項目2にあったことはすべて行っている。
- ・その他、他県の面接にかかる交通費、ラウンジ、インターンシップの交通費、保護者向け就職説明会、を行っている。

- ・企業の個別説明会も就職課が受け付けている。ヒアリングの日も、フロア内に設置している小テーブルで、職員が企業の採用担当者と話している様子が見られた。

学内で行う合同説明会は、「アリーナ」で行う。近年希望企業が増え、2日に分けて（800社）、3年生の2・3月の学内企業説明会で内定をとる学生が多い。6・9月にも4年生向け合同説明会を行っている。

採用面接型インターンシップも積極に取り入れている。そのための「フェア」も行っている。101社が参加。

大手企業（55社）に対して「企業交流会」を行い、大学を知ってもらうようしている。



学部	学科	就職率	就職先
工学部	機械工学科	99.8%	トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車、三菱自動車、富士重工業、本田技研工業、日産自動車、三菱自動車、富士重工業
	情報工学科	99.8%	NTTデータ、富士通、パナソニック、日立製作所、三菱電機、東芝、日立製作所、三菱電機、東芝
情報工学部	情報メディア学科	99.8%	パナソニック、日立製作所、三菱電機、東芝、日立製作所、三菱電機、東芝
	情報システム学科	99.8%	パナソニック、日立製作所、三菱電機、東芝、日立製作所、三菱電機、東芝
社会環境学部	社会環境学科	99.8%	パナソニック、日立製作所、三菱電機、東芝、日立製作所、三菱電機、東芝
	環境デザイン学科	99.8%	パナソニック、日立製作所、三菱電機、東芝、日立製作所、三菱電機、東芝
短期大学部	情報メディア学科	99.8%	パナソニック、日立製作所、三菱電機、東芝、日立製作所、三菱電機、東芝
	情報システム学科	99.8%	パナソニック、日立製作所、三菱電機、東芝、日立製作所、三菱電機、東芝

地元就職・佐賀への就職について

福工大では、就職に関しても様々なデータを蓄積しており、「キャリア・ガイダンス」という冊子で情報が整理されていた。

佐賀県へのUターン就職は、11名/47名中であり、23.4%である。福岡が33.3%、長崎8.9%、熊本23.8%、鹿児島24.0%、大分14.8%、宮崎14%、沖縄0%、という中では平均的である。

個別説明会（1日4社まで）も希望があれば行っている。以前は月1回佐賀県が来ていた（ただし、学生は毎月1名程度の参加だった）が、今年はない。逆に、長崎県が始めた。

その他の意見

- 以前、市単位（数社の企業合同）で説明会に来られていたことがあったが、企業の業種と福工大の学生の専門性と一致しないため、学生の参加が少ないということがあった。
- 自治体単位のUターンを狙ったインターンシップに関して、業種をそろえたパッケージがあると思うが、福工大だけのためにしてほしくはない（学生に参加を強制するわけにはいかないので）。類似の専門教育では、西日本工業大学などがあるので、そういうところとあわせて、考えてもらえたらいいと思う。
- 情報系の企業が佐賀駅前に集積しているが、学生にも、保護者にも、知られていないのはもったいないと思う。

